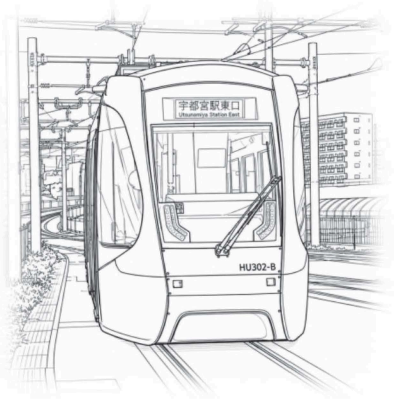
現存最古の街で聴く
最新路面電車のはなし

― 路面電車の活用と可能性 ―



2023年8月26日、路面を走る電車が国内で75年ぶりに宇都宮で新規開業しました。開業までの約30年のみちのりと開業後の街の変化、また、宇都宮駅西側への延伸計画やバスも含めた公共交通の再編について宇都宮からお越しいただきお話をしていただきます。現存する中では最古の路面電車が走る街・高知。そのきっかけになった「伊野」で、新しい路面電車の話を聞いてみませんか？

日時：2026年11月7日（土）
　　14：00～16：30（開場 13：30）

会場：すこやかセンター伊野

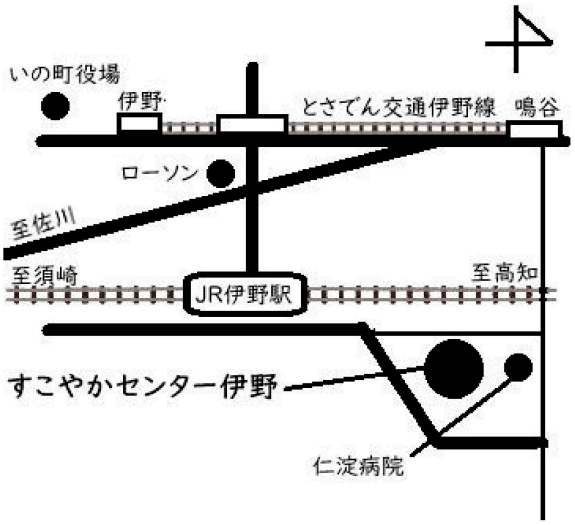
講師：矢野公久氏（宇都宮ライトレール株式会社 常務・岐阜県まちづくり政策顧問）
　　郷間佳久氏（宇都宮市都市整備部交通政策課 課長）

入場無料（事前申込不要）

主　　催：高知の電車とまちを愛する会

後　　援：いの町・いの町教育委員会・いの町観光協会・四国運輸局高知運輸支局・高知県・高知県教育委員会・高知市・南国市・土佐市・朝日新聞高知総局・毎日新聞高知支局・読売新聞高知支局・高知新聞社、RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ

すこやかセンター伊野
〒781-2110
高知県吾川郡いの町1400



＜アクセス＞
・土讃線伊野駅下車、徒歩約10分。
・とさでん交通路面電車
「鳴谷」下車、徒歩約5分。
・伊野ICから車で約10分。

＜駐車場＞　あり

高知の路面電車は伊野の紙を運ぶために作られました。紙などの貨物利用が無くなってからも、土佐三大まつりの一つ、伊野の大国様の大祭や初詣に利用されてきました。しかし、昭和３０年代半ばには１５分に１本から２１分に１本、さらに２０２１年（令和３年）には４２分に１本となり、利用には厳しい環境になっています。

ところで、２０２３年（令和５年）８月２６日、宇都宮市と芳賀町を結ぶ宇都宮ライトラインが国内で７５年ぶりに路面を走る電車として開業しました。これまで路面電車が無かった街に一から線路を引いて作られ、開業からの利用者数は予想より半年早く１，０００万人に達しました。路面電車の線路が約１２０年前から既に引かれている高知は大変恵まれた環境にあります。せっかくあるのに乗らないのは、もったいない。

２０２８年（令和１０年）２月には伊野線全通１２０周年を迎えます。今回の企画はプレイベントの１つとして、現存する中で最古の路面電車が走る街で、最新の路面電車を走らせるまでと開業後の効果のお話などを伺い、路面電車が便利なものであることを知っていただこうという目的で企画しました。

≪関連イベント≫

◎　とさでん交通伊野線開通１２０周年記念プレ企画

路面電車でたどる紙のまち　― 伊野～咥内の謎を解くまち歩き ―

日時：２０２６年１１月７日(土)　集合９：２０　解散１２：００

集合場所：いの町役場正面玄関

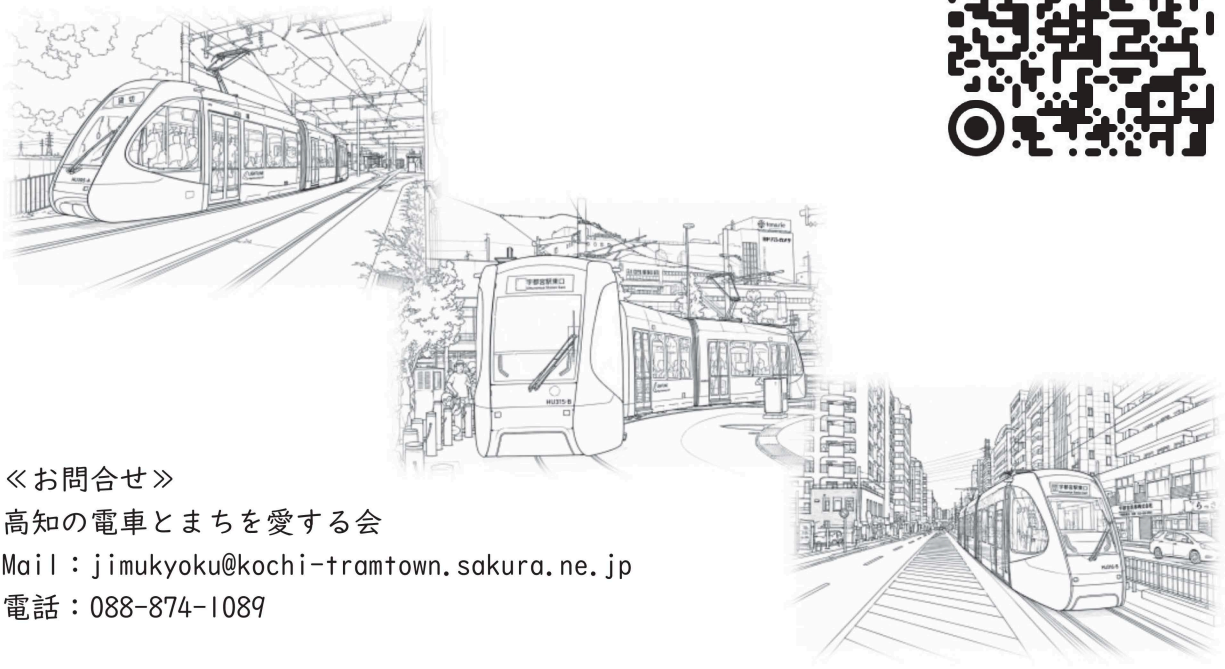
参加費：１０００円　※とさでん交通「伊野」～「咥内」間往復運賃５００円は別途必要

申込み・お問合せ：いの町ガイドくらぶ（いの町観光協会）　０８８－８９３－１２１１

イベント内容：路面電車で咥内へ行き、紙を運んだ旧道や咥内坂改良工事や
路面電車のトンネル跡などを見ながら歩きます。

主催：いの町ガイドくらぶ　協力：高知の電車とまちを愛する会

詳しくは右の QR コードから「いの町観光協会」のイベント案内へ



≪お問合せ≫

高知の電車とまちを愛する会

Mail：jimukyoku@kochi-tramtown.sakura.ne.jp

電話：088-874-1089